

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

令和元年 7月 22日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士課程3回生

氏 名 正田 佑

助成の種類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第10回 国際景観生態学会 (IALE) 世界会議 10th IALE World Congress		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )		
発表題目	Growth of two street tree species in Kyoto City, Japan		
開催場所	イタリア ミラノミラノ・ビッコッカ大学 (University of Milano-Bicocca, Milano, Italy)		
渡航期間	令和元年 7月 1日 ~ 令和元年 7月 6日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券代(大阪～ミラノ往復)	133,000円
		大会・分科会登録費	121,000円
交通費(国内・現地での移動)		12,000円	
宿泊費・滞在費の一部		34,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 海外での学会参加は、登録費だけでなく航空券代や宿泊費等が多大にかかるため経済的負担が大きいです。貴財団の助成により、4年に1度の世界大会に参加する貴重な機会を得ることができました。ご支援くださいましたこと、心より御礼申し上げます。学生を対象とした国際学会参加のための助成事業は少なく、また応募条件や助成内容に制限の多い事業がほとんどである中で、応募手続きも煩雑でなく、助成内容も柔軟である貴財団の助成は博士課程学生や若手研究者にとって非常に意義があると考えております。また、博士課程学生や若手研究者に対する国際学会発表の経済的支援は、人材育成や国際交流、研究の推進といった観点からも大変重要であると思っておりますので、ぜひこの助成事業を今後とも継続されることを心から願います。		

## 成果の概要

農学研究科 博士後期課程 3回

正田 佑

### 1. 国際会議の概要

今回参加させていただいた IALE World Congress (国際景観生態学会世界会議) は、Landscape Ecology (景観生態学) 分野で最も大規模な世界大会で、4年に1度開催されている。イタリアのミラノにて開催された今回の 10th IALE World Congress には、世界 30カ国以上からの参加があり、研究機関や大学、NGO 等の様々な主体により合計 50 以上のシンポジウムが開催され、発表総数は約 1100 に及んだ。

### 2. 発表の概要

筆者は"Urban Forestry"セッションにおいて、"Growth of two street tree species in Kyoto City, Japan (京都市で生育した街路樹 2 樹種の成長解析)"という題目で、15 分間の口頭発表を行った。発表では、都市林の生態系サービス評価の基盤となる樹木の成長の解析について、京都市における街路樹 2 樹種を対象とした下記の研究成果を報告した。

都市域の生態系において重要な役割を果たしている街路樹の生態系サービスの価値をモデル化し、評価するためには、都市の樹木の成長に関する情報が不可欠である。特に樹木の成長式は、生態系サービス評価で使用される多くのモデルにおける計算の基盤となっている。日本においては、街路樹の生態系サービスを評価する試みがごく少数なされているが、根拠となる評価モデルは米国の樹木成長式に基づいている。そのため、日本の街路樹に適用可能な評価モデルのさらなる発展が期待されている。本研究では、日本において街路樹としての植栽本数の多いケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) とイチョウ (*Ginkgo biloba* L.) の街路樹について、胸高直径 (DBH) 成長式および樹高成長の成長式を提案することを目的として、京都市の街路樹を対象に行われた。本研究により得られた京都市の街路樹の成長式と、米国における同樹種の街路樹の成長式を比較した結果、京都市の街路樹は概して米国の街路樹に比べ成長が遅いことが示された。これは、京都市の街路樹の植え樹が小さいことや、京都市の街路樹に対して強い剪定管理が行なわれている等といった街路樹の管理方針が原因であると考えられる。このように、同樹種であっても管理方法や植栽環境によって街路樹の成長の程度は異なるため、その国や地域に適した街路樹の成長特性の把握や成長式の作成が必要であることが示唆された。

### 3. 国際会議への参加を通しての成果

今回国際会議に参加し、研究発表を行うことにより、都市の生態系の重要な構成要素の一つである街路樹について多角的な視点に立っての情報収集、意見交換を行うことができた。

た。発表した研究は、現在国際誌に投稿中の論文の一部と、今後国際誌に投稿予定の論文の一部に関わる研究である。さらに、筆者の博士論文の一部となる研究である。そのため、今回の国際会議への参加を通して得られた知見やアイデアを投稿論文と博士論文へ反映させることで、論文の質の向上につながると考えられる。同時に、筆者の研究を海外の研究者や実務者にアピールする良い機会となった。また、筆者の研究に関する情報収集や意見交換だけでなく、各国の最新の研究や話題に触れ、議論できたことは今後の研究における視野を広げる貴重な機会となった。

同じ分野で研究を行っている若手研究者や博士後期課程学生とのネットワークができたことも大きな成果であった。今回の国際会議は筆者の専門分野において最も大規模な世界大会で、4年に1度の開催頻度である。そのため、今回は筆者が博士課程後期課程の学生のうちに参加できる最後の機会であった。そういった状況の中、筆者は国際会議に伴って開催された博士課程後期学生の分科会（国際景観生態学会の主催する博士後期課程学生のための研究発表会、若手勉強会、シンポジウム等）の選抜に通過し、参加する機会を得た。そのため、現在行っている研究の深化のみならず、博士後期課程に所属する世界各国の学生との議論や勉強会を通して濃密な時間を過ごすことができた。この国際会議と分科会参加を通して、世界各国から集まった同分野で研究する若手研究者や博士後期課程学生らと交流ができたのは今後研究を進める上で非常に重要な成果であると考えられる。

#### 4. 謝辞

この度の 10th IALE World Congress への参加および発表はたいへん貴重な経験となりました。特に、筆者の博士論文に関わる研究の新たな視点を得たこと、各国の最新の話題に触れることができたこと、同じ分野で研究を行う各国の博士後期課程学生間のネットワークができたことは本大会に参加しなければ成し得ませんでした。最後になりますが、このような機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に多大な感謝を申し上げますと共に、貴財団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



筆者の口頭発表の様子



分科会では参加者全員がポスター発表を行った



分科会における少人数でのディスカッション